

## 2・24以後の世界

―国際関係の構図変化―

**2**月

24

日

シアがウクライナに

対

特別軍にロシー

事行動\_

落としている重要な事実がある。すなわち、 までロシア排斥の動きが現れたという。 気が醸成された。 道で歩調を合わせた結果、 メディアも「親ウクライナ・ シア非難の声が浸透し、 を自認する日本の岸田政権もロシア非難 強烈な非難・制裁に直面した。「西側の一員 ソ冷戦時代にもなかった」と驚き戸惑うほ した国連憲章 距離をおき かし、 の大合唱に加わった。 異常なまでの の大部分は アフリ アメリカを筆頭とする西側諸 N A T O の 一 日本を含む西側諸国・世論が見 クラシック音楽、 (第2条4項)に違反するもの 対 **力** 特に欧州では、 「ロシア嫌 員であるトルコは ロシア自身が 玉 裁にも 「のロシア非難か 西側世論にもロ 西側主要マス・ 反ロシア」 つまり 古典文学に スポー 加 の雰囲 非西 って 玉 一米 ッソ 0

大量に買い付ける始末だ。ア制裁の主要対象である原油をロシアからを構成するインドに至っては、西側のロシ積極的に関与し、米日豪とともにQUAD

ロシアのウクライナ侵攻が際立たせたののが本稿の目的である。

## 西側のロシア非難・制裁の問題占

確に で東西冷戦 対ロシア戦略 が軍事侵攻を余儀なくされ 非を高唱する。 の安全保障環境を脅かし、 .理解している。 側諸国はもっぱらロシアの ATOの5次に及ぶ東方拡大で が終結 しかし、 アプロー 具体的には、 た後も西側は手を緩 途上諸! チにあることを正 た原因 20 軍 玉 ソ連崩 は 1 事 が 4 西 口 口 側 シ 年 壊 8 0

シアとウクライナの停戦に中立の立場で

井 基文

との以上 いる。 援 いるということだ。 けてきており、 の関係を維 ウクライ ソ連崩 今やロ 上の関係 ナの 持 シア国境 壊後も 反 これら諸 発展させる地道な努力を続 0 ロシア 推移を基本的に理 口 ーシアは まで脅 玉 は による政 ロシアと西 非 かすに 茜 側 至っ 解 諸 変を支 覚して 玉 側 ح

カを筆 も見逃すことはできな に対する非西側諸 ない国々に対 また、 頭とする西側 米ソ して経済制裁を乱発すること (東西) 国 が、 0 冷戦終結 警戒 西 側 反発 0) 後、 意向に従 0 強 ア なまり メ 1] わ

キュー カが「テ 南アフリカに対する安保 れてきた。 る経済制裁は 確認しておく必要がある。 のなど、 経済制裁自体は、 口 正当性を持つケー 支援国家」と指定 朝 鮮、 早くからその リビア、 アパル 理 イラン等に対す しかし、 スがあることは 決議に基づくも 1 不当性が指摘さ して発動した、 ヘイト アメリ 時 代 0

る。 いる。 行手段として経済制裁 指摘されたイランに対して ある SW り引きを円滑にするための技術的 ユ 1 21世紀に入ってから、 口 すなわ 1等を持 最初に対象となったのはイランであ Ï F ち、 Tを利 西 国際決 侧 用 諸国 級を本格: じて、 済通貨であるド は、 西 国際取 側 本来は 核開発疑惑を 的 は 品に採用 対外 仕組 'n 引きを 政 国 みで 際取 して 策遂 j ル

> ン 開 0) 強烈な経済制裁を発動 JCPOA 重 スを計ったのが、 |発抑え込みを狙った西側との利益 圧解除を求めるイランと、 Ļ イランの である。 在外資産を凍結するなど、 11 で した。 わ ゆるイラン核合意 ちなみに、 イランの核 のバ そ ラ

在米資産の半分没収 没収することまで視野に入れていることだ ロシアの在外資産を凍結するに留まらず、 制 対して、 《前例:アメリカによるアフガニスタン中央銀 裁を発動 西側はイランに対する以 してきた。 その 最たるも 上 一の経済 のは、 攻に 行

ロシアのウクライナに対する軍

事

侵

る。 本質 的支柱)の否定に等し 融投機主義にむしばまれ 踏みにじることは、 もっとも重要な柱の一つでもある。 0 拠って立つ基本であ L か 的 ĩ 腐敗を集中的に表現するもの 財産権 0) 西側 不 ŋ 可 た西側資本主義 0) 新自由主義、 侵 )存立基 基本的 は 資 盤 これを 八権 本主 で (精神 あ 0 金  $\mathcal{O}$ 義

う争 づく 諸国 かという体制 公平な競争、 提にした開 連崩壊によって、 のほとんどが いは事実上幕を下ろした。 西側主導で作ら 発戦 財 ・イデオ 産権の不可侵等の 略を採用 清湯! 経済 資本主義 れた国際経済 口 ギ メカカ j . O 今や非 ニズ 優位 か社 由な市 原 **別に基** 性を 会主 0 ムを前 枠 西 場、 側 義

強化することだった。

みに 展を目指している 参加することを 通じ て、 自 国経済 の発

機感・ 捨て、 とっては である西側が今やこれら 原因となってい え込む制 ところが、 イラン次いでロシアを力尽くで押さ 警戒感が 裁 「明日は我が身」 に訴えたのだ。 資本主 . る。 西側と一 義 自 線を画する重 0) 由 であり、 原則をかなぐ 経 済 西 0) 側 本 この危 諸 家 一要な 国に 本 n 元

## 国際秩序のあり方をめぐる対

その際、 重点地 リカ 界 イデン政権のインド太平洋戦略 ブッシュ 多国籍軍、 盟国・友好国の動員 ではなくなっていることだ。 拡大すること、 情勢の変 的には、 てきた。 のことは自覚し、調整・適合の努力を行な 、の転換 ア の実力はもはやかつてのように絶 極支配を目指してきた。 メ ij 域 子 クリントン政権の選択的介入・国連利用 具体的には、 化に応じて ア 全世 力 (オバマ政権のアジア太平洋戦 (アジア)に資源を集中 は、 メリ 政権の対テロ戦争)、 1界に睨みをきかせる戦略 そして日 力 米ソ冷戦終結 が Ν 重 (ブッシュ 視 覇権維持の A T O 米軍 たことは、 を指摘 問 0 歴代政権もそ 事 後 また地 対応能力を 众 父 題 同 する戦 ため 貫 盟を変 は できる。 政 から アメ の同 対 7 政 権 学 0 的 世 0

措定し、 が何を指すかは一度として明らかにしたこ 序」である。 る。その中心軸は メリカ中心 孤立させ、 接の脅威と規定して、中ロ両国を 特にバ イデン政権は ウクライナ危機以後はロシアを直 無力化する戦略を採用して、 の世界一 しかし、アメリカは「ルール」 「ルールに基づく国際秩 極支配を追求して 最大の脅威を中 国 口際的に 国 ア ع

とはない。

「西側の実際の行動を分析すれば、これらのルールがケース・バイ・ケースで異ならのルールがケース・バイ・ケースで異ならのルールがケース・バイ・ケースで異ならのルールがケース・バイ・ケースで異ならのルールがケース・バイ・ケースで異ならのルールがケース・バイ・ケースで異ない。すなわち、西側が欲することには従え、さもなければ罰せられる、ということだ」である。要するに、昔ながらのゼロ・サム(弱肉強食)のパワー・ポリティックス(権力政治)の強食)のパワー・ポリティックス(権力政治)に固執しているのだ。

合 とも拒否した多くの非西側諸 は事実だ。 激化によって国連の活動が制約されたこと 築することを目的としている。 とを定めて、 紛争を平 の原則」に基礎をおき (第2条1項)、 しかし、 (国連) は、「すべての 和的手段で解決 しかし、 1945年に成立した国 平和で民主的 東西いずれに与するこ 加盟国 な国際秩序を構 (同2項) 国が参加して 東西冷戦 の主 するこ 権 際 国際 平等 連

は一貫して存在してきたということだ。た。民主的な国際秩序の実現を目指す動きで民主的な国際秩序を目指して活動してき

張した。 て、 に勢いを増すこととなった。すなわち、 これに加わる立場を鮮明にしたことで一気 礎とする国際秩序」を堅持すべきことを主 連を核心とする国際システム、 の若干問題に関する共同声明」 日に発表した「グローバル・ガヴァナンス した。また、 国際法に背馳する「一方的な制裁」に反対 法を促進することに関する声明」を発表し ロ両国外相は2016年6月25日に「国際 際秩序の実現を目指す動きは、 ウィン・ウィン 国連憲章遵守、主権平等原則を強調. 両外相名で2021年3月24 (共存共赢) の民主的な 中口 国際法を基 では、 両 国 Ĺ 玉 中 が 玉

## 21世紀国際関係の構図

世界の雌雄を分ける争 大の争点となっている。 う対立は、 ウィン(共存共嬴)の民主的国際秩序かとい ポリティックス こうして、ゼロ・サム 期的にはウクライナの抗戦継続能 今や21世紀 (権力政治)秩序か、ウィン・ 61 国際関係 (弱肉強食) でもあ 西側世界対 る。 における最 のパ ワー・ 西 力、

中

期的

にはド

ル

ユ

1

口

の支配力、

長期的

無期限に継続できるとは考えられない。側諸国が、ウクライナに対する軍事支援を帰趨を左右するだろう。国内矛盾山積の西には西側と非西側の総合力比がこの争いの

ば、 り、 がウィン・ウィン (共存共嬴) ますます広がる。これらのことを勘案すれ 言って良いだろう。 秩序に席を譲ることはもはや歴史の流 のパワー・ポリティックス 実味を持って語られるようになった。 た。2030年頃には中国が世界第1 追い越して世界第5位の経済大国となっ 経済大国となり、 は2010年に日本を抜いて世界第2位 動きはもはや動かすことはできない。 インドが第3位の経済大国になることも現 非西側諸 西側 21世紀半ばに 世界と非西側世界の実力比は今後 国の脱ドル化・脱ユーロ インドは最近イギリスを にはゼロ • サム (権力政治) の民主的国際 (弱肉強食) 化 秩序 つま 中 位、 玉 0) 0)

と思う。 史の流れに即した生き方を心がけることだー憂せず、歴史的に物事を考え、自らも歴ーをせず、歴史的に物事を考え、自らも歴ーをでいる。

あさい・もとふみ/政治学者、元外交官)